「中国ぎらいのための中国史」

作者：安田峰俊
現代日本の中国報道を牽引する大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家が、中国の無数の「民族」たちの喜怒哀楽を描き、帝国化する大国の実相をえぐりだす。 1982 年生まれ、滋賀県出身。 紀実作家（ノンフィクションを専門とする作家）。 立命館大学人文科学研究所客員協力研究員。 朝日新聞論壇時評委員（2023-24 年）。 広島大学大学院文学研究科博士前期課程修了（中国近現代史）。 中国問題を中心に幅広く取材・執筆

奇書：三国志（諸葛孔明）諸葛宇傑（ユイジエ）上海市党副書記　習近平の次世代 5 人（1970 年代生まれ世代）。234 年に諸葛孔明が無くなってから 1800 年ぶりに中国に諸葛宰相が誕生するか、中国では歴史は単なる過去の出来事ではなく現代の政治的な問題を否定、肯定する材料として活用する。諸葛孔明の南征により辺境の少数民族の統治に成功し国家の統一が中華民族文化の拡大に貢献したと考えられている。
水滸伝：白話小説（明清時代の口語小説）人気順位　水滸伝⇒三国志⇒西遊記⇒紅楼夢（コウロウム）三国志は諸葛孔明や劉備のようなストーリーの核がいるが、水滸伝は 108 人で実施的犯罪者でもあり受け入れがたい面がある。水滸伝を組織論として読む中国の現在、三国志劉備チームは立派なリーダーに自発的に協力する人が集まる理想的組織だが、水滸伝は 108 人の参加理由は個人的場当たり的が多く、組織の上下関係が緩い、現代中国の一般労働者も組織への忠誠心は弱く自己都合ですぐに転職する。毛沢東は主要な論文で水滸伝を多く引用している、文革において彼が武器にしたのが（水滸伝の登場人物のように）無関係な人間まで巻き込む暴力性を発揮してでも毛沢東に忠誠を誓う近衛兵であった。

戦争：孫子は春秋時代に南方の長江下流域で勢威を張った呉の将軍・孫子の著作
それまでの戦いは士のみ参加し馬が引く戦車で戦い期間も短く、儀礼的な要素が強かったが、呉は庶民の歩兵を大量動員し敵国を撃滅するまで戦いを継続した。戦場から呪術や儀礼を排除し、自軍を確実に勝利させる理論が孫子の兵法であった。非妥協的な戦争が広がり秦の始皇帝の全国統一に繋がった。孫子は各手段で敵の行動や意思決定をコントロールし外交を活用して自国に有利な国際情勢をつくり、敵の内情を収集するスパイ活動を重視した。毛沢東の紅軍の基本戦術「十六字訣」に兵法と類似部分ある。相手の無防備な場所を狙って攻める（尖閣諸島周辺）
中国の情報工作は「認知作戦」と呼び、非軍事的な手段で戦わずにして勝つことを狙うのは、孫子の諜攻編と類似している。兵法では城攻めは下策であり認知戦を台湾は恐れている、しかし大日本帝国軍にも孫子の読者は多かったが情報軽視や長期出兵にて敗北の道へ進んだ。
元寇（げんこう）：1274，1281 年の二回フビライハーンの命令を受けた軍隊が北九州（黄金の国ジパング）を襲撃、第三次侵攻は内紛で中止、鎌倉武士団の防衛に成功したが負担は鎌倉幕府の滅びる遠因となる。中国国内での元寇の知名度低い、中国全土支配の非漢民族王朝は元と清のみ、

中国は公教育の中では、中国は歴史上一度も他国を侵略したことがないと教えている。
アヘン戦争：中国の近代とは1840年アヘン戦争から1949年の中華人民共和国成立までの時期。アヘン戦争、清仏戦争、日清戦争等で国土の一部が植民地となり財政は借款漬けの中国となり、中国人にとって、悲惨な近代をもたらしたのがアヘン戦争である。西洋に騙されたとのトラウマがあり、強い被害者意識があり自国の弱さが招いた結果であり中国の愛国主義の歴史が始まった。天安門事件で中国共産党は平和演変の概念を主張、これは西側が武力を用いない方法で党体制の転覆をもくろんでいるとの国際認識である。事実一部はデモ隊を助ける行動があった、さらに西側は帝国主義の列強諸国とイコールであった。しかしデモは列強の扇動だったとのプロパガンダがあったが、鄧小平の経済開放政策の推進の中で薄れて行った。胡錦涛時代の普世価値（西側の価値観を受け入れ）から習近平の社会主義核心価値観へ変化し、強国アピールと被害者意識を強調するプロパガンダを通じて自国が強くなったことで、暗黒の近代の復讐を果たしたいとの党の思考が庶民を暴走に駆り立てている。

王朝：唐 G７広島サミットの裏で陝西省（センセイ）西安に中央アジア５か国を招待したアジアサミットを中国が開催した。西安は秦、漢、唐などが首都としており唐は最も強大な国家であり中国人が誇りにしている王朝である。唐代の西安はシルクロードの起点であり、一帯一路のスローガンと相性が良い、唐は７世紀から８世紀の最盛期に中国本土の殆どに加えて西域に勢力範囲を伸ばしていた。習近平が中央アジアの元首を西安で唐代風の歓迎式典で迎えた構図を深読みしたくなる。平安京の都市設計律令制度、正倉院の宝物、遣唐使の派遣など日本人と唐は馴染む深い王朝である。唐はシルクロード文化を展開し漢詩の名作を多く生んだ中国文学上の黄金期でもあり現在中国人にも人気がある、さらに李世民（リセイミン）の人気も高い、兄弟を殺害したクーデターで帝位についたが当時はクーデターが日常茶飯事であった、彼の政権奪取後に中国が秩序を取り戻したのでモラルをまともに論じられるようになり、彼の行為が悪となった。北方民族が漢民族と文化的血統的に混ざり合い生まれたのが唐であるが習近平の中華民族の偉大なる復興では中華民族イコール漢民族である。
明：洪武帝（コウブテイ）によって1368年に建国約280年続いた漢民族王朝。行政機構や文化で後世への影響大きい、天安門、万里の長城は明代に建設、各省の雛型や政府が中央官僚を地方行政のトップに据える仕組みなど、印刷物の明朝体が広がり水滸伝や三国志が読まれた。王朝初期の皇帝に重用された鄭和（テイワ）は大艦隊を率いてインド中東アフリカまで朝貢を促しつつ文物を持ち帰った、これは皇帝の私的事業であったが、1980年代から鄧小平が鄭和を対外開放の先駆者として言及した。一帯一路の海上シルクロードは、鄭和艦隊が遠征したルートと一致する、インドやアフリカの習近平訪問時に鄭和の事業に言及している。

学問：孔子（前552～前479）ソクラテスと並ぶ思想家で言行録が「論語」、中国政府肝いりの孔子学院は中国語や文化の教育機関であり、2018年には154の国地域に存在し日本にも12校（2024年４月）、2020年頃から西側で警戒論強まり閉鎖の事例も、さらにノーベル賞の対抗で

孔子平和賞（2010 年から 2017 年廃止）中国の外交政策に孔子を活用している。孔子の死後教えのもと成立した儒教、学問の儒学は国教となった時代もあったが、文化大革命では儒教批判キャンペーンが展開されたが、1980 年代に文革路線が否定される中で孔子は優れた教育者として再定義された。文革の失敗や天安門事件で党に対する信頼が色褪せて、経済発展による拝金主義が蔓延して共産党にとって道徳的秩序の回復が必要となった。胡錦涛時代の 2002 年に孔子研究所が成立、習近平は儒教の仁政を体現する君子として振舞っている。

科挙：大学共通入試の高考（ガオカオ）、北京大学は倍率数千倍、成績上位者は公開されトップは状元（ジョウゲン）と呼ばれ科挙（600 年～1900 年）と同じ呼び方を使っている。科挙は能力以前に貴族を優遇する問題が続いていたが、唐末の戦乱で貴族層が虐殺され世襲を続ける既得権益者が排除されて問題が解決した。3 回の地方予備選⇒省都にて 3 年に一回の本戦⇒北京での会試⇒殿試（皇帝が試験管）猛勉強の先には苦労に見合う見返りがあったので勉強に打ち込む財産が多大に必要であった。そこらか政治力と経済力を併せ持った知識階級を士大夫と呼ぶ、日本は政治・経済・学問のトップは分離しているが、中国の政治指導者は学識が高いほど好ましいとされている、そうすると金も付いてくる。習近平は清華大学の法学博士号をもつ（論文疑惑あるが）、文化大革命の時期に高等教育を受けられなかった弱みがあり士大夫イメージを宣伝したがる。

漢詩と李白：教育熱心な家庭で育った現代中国の若者は子供の時に有名な漢詩に接している、科挙でも漢詩の才が要求された。田中角栄が日中国交正常化の際に毛沢東に漢詩を送っているが、文法等が酷く物笑いとなった、、、毛沢東は漢詩集を田中角栄へ送った、理由に田中角栄の迷惑の使い方が間違っていたからとの推察もあり。

帝王　始皇帝：秦は前 221 年に中国を統一、皇帝の称号、漢字の字体統一、郡県制などは中華人民共和国まで継承されている。大一統（ダイイートン）

毛沢東：中国経済の高度成長が始まった 30 年前なら持たざる者でも才覚次第でのしあがる余地があったが、現在の中国は階層が固定化している。負け組の心の拠り所としての毛沢東は生前が神様そのものであったが、死後 1981 年に党は毛沢東を功績第一、誤り第二とする歴史決議を実施、鄧小平はやり過ぎ 3 割、功績 7 割と評した。習近平は毛派の支持を得ているが、鄧小平の定めた集団指導体制は最高指導者の任期制は崩したが改革開放政策を撤回出来ない。2021 年に共同富裕の概念を出したが中産階級以上からは反発を受けている。言論統制の習近平政権から閉そく感に苦しむ若者が毛沢東やマルクスを再発見している、中国社会では民主主義はインテリ層しか理解出来ないが、毛沢東思想はインテリにも社会の最底辺層にも響く、大衆を熱狂的な闘争に駆り立てる魔力は中国社会にまだ存在している。